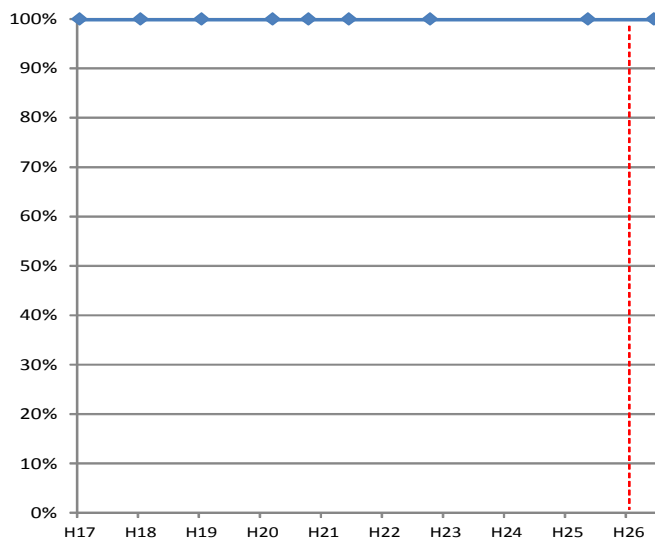


樹種名	トネリコ	
科 目	モクセイ科	
学 名	<i>Fraxinus japonica</i>	
分 布	日本原産種であり、東北地方から中部地方にかけての温暖な山地に自生する。	
樹木特性	山地の湿地に生えるほか、田の畦に「はざ木」として植えられた。近年では街路樹等に植栽されている。	
用 途	器具材（バット）として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	15 本 (他樹種との混植)	
特 徴	【樹 形】 落葉高木であり、樹高は約 15m 程度になる。花期は 5 月から 6 月頃。 木材としてのトネリコは弾力性に優れ、バットや建築資材などに使用される。 樹皮は漢方薬とされ、止瀉薬や結膜炎時の洗浄剤として用いられる。 新潟県では古くから水田の周囲などに並木として植えられ、刈り取ったイネを架けて乾燥させる「はざ木（はざぎ・はざぎ）」として利用された。近年では、街路樹や園芸樹として各地に植えられていることもある。	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、病虫獣害も特に見られず現存率、成長状況ともに良好である。植栽から 9 年が経過し、平均樹高は 6m 程度と順調に生育している。	 
被 害	特になし。	

トネリコ 現存率



【現存率】

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 100%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

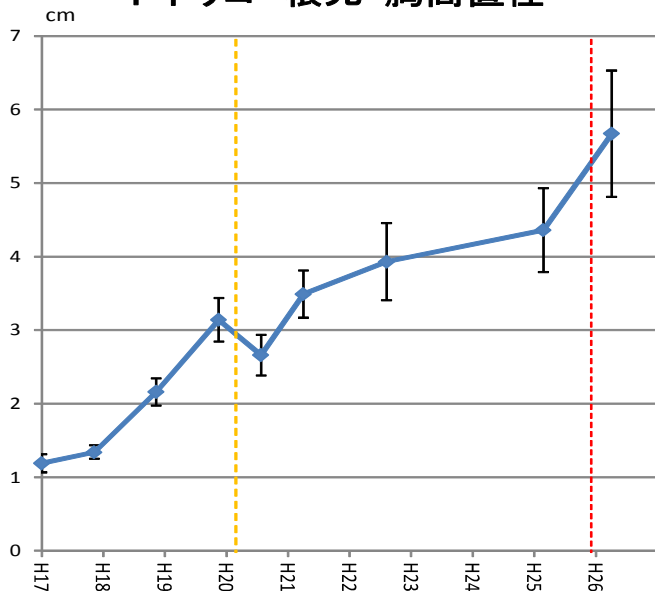
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 5.67 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

トネリコ 根元・胸高直径



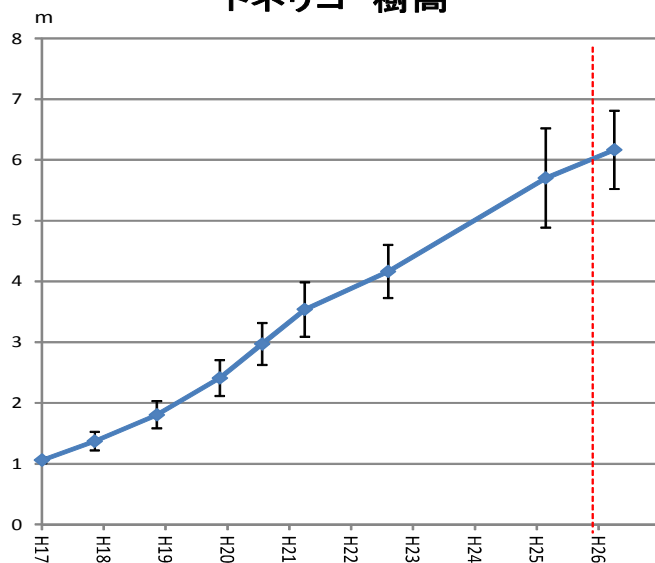
【樹 高】

植栽後、順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 6.16m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

トネリコ 樹高



《プチ情報》

和名の由来は、本種の樹皮に付着しているイボタロウムシが分泌する蠟物質（イボタロウ）にあり、動きが悪くなった敷居の溝にこの白蠟を塗って滑りを良くすることから「戸に塗る木（トニヌルキ）」とされたのが、やがて転訛して「トネリコ」と発音されるようになったとも言われている。